

【インドネシアの子供のための地震津波パンフ配布活動】

＜津波で親を失った子供を支援しているアチェの NGO との連携＞

私たちが昨年8月にアチェに行ってこの NGO と会合を持ち、津波パンフを1000部送ることを約束しました。それを11月末に郵送しました。そのパンフはその後アチェで MGO と津波教育センターとの共同活動などいろいろなイベントのときに配布されました。その様子を NGO から写真が送られてきました（右写真）。



＜インドネシア、スラウェシ島 Palu（上地図）で地震パンフを配布しました＞

2014年3月7日から12日までスラウェシ島の Palu という町で地震パンフを配布しました。Palu での活動には香川直子、遠藤敦志、中村実、Dr.Dicky Muslim、Mr.Chandra、柴山元彦の6名が参加しました。この地域は地震が年間3,000回も起きています。この町の小学校3校と博物館を回って子供たちに地震パンフ配布しました。



＜今後の活動＞

◎火山防災パンフの作成

最近インドネシアでは火山活動が活発になり噴火がいくつもの火山で起きています。昨年から考え始めていた子供のための火山防災パンフの原稿がやっと出来上がりました。これから印刷に入ります。このパンフも飛び出す部分があるため、その取り付け作業がこれから始まります。12月にインドネシアの火山地域に持って行く予定です。